

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2024-夏

No.105

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



知恩院 京都 2004年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

このたびの能登半島地震では、多くの文化財が被災しました。国が指定等した文化財だけでも被災件数は三〇〇件を超え、歴史的な町並みを残す黒島地区や匠の技の結晶である輪島塗などの被害の甚大さは、報道でも大きく取り上げられています。この他にも、県指定や市町村指定、地域の核となる社寺や民家、伝統行事に関わる建物や道具、民俗慣習を伝える資料等の文化財が被害に遭っています。私自身、現地視察において文化財の被害の大きさを目の当たりにしました。文化財の復旧・復興に文化庁として全力で取り組んでまいります。

文化庁では、独立行政法人国立文化財機構等の関係機関と連携し、文化財ドクター派遣事業（建造物の応急措置に対する技術的支援）及び文化財レスキュー事業（美術工芸品等の破棄・散逸を防ぐための支援）を進めています。これらの事業は、平成二十三年（二〇一一）の東日本大震災を受けて開始され、平成二十八年の熊本地震においても引き継がれました。過去二回の活動においては、貴財団

に窓口となっていたとき、全国各地から多くの御寄付をいただきましたが、今回の能登半島地震においては、国として予算を確保し、文化財ドクター派遣事業及び文化財レスキュー事業を実施しています。

また、これから被災文化財の本格的な復旧事業が進んでいくため、所有者の方々の負担を軽減できるよう、文化庁として必要な予算の確保に努めてまいります。

さらに今回、文化庁は、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団、株式会社博報堂、RE^{レディ}ADY^{フォー}株式会社との官民共創による寄附促進事業として「文化財サポーターズ」を三月二十六日に立ち上げました。「文化財との新しいつながりを持つきっかけとしての寄附」というコンセプトのもと、社会全体で文化財を支えていくための仕組みづくりを目指しています。

その第一弾として、能登半島地震で被災した文化財の復旧・復興のための寄附を募集しています。文化財は自然環境と長い歴史の中で育まれた地域の伝統と、その土地に住む人々の生活様式が織りなした生きた文化、その土地の貴重な資源であり、宝物です。文化庁や地方公共団体が連携して文化財の災害復旧に取り組んでいますが、文化財を元に

筆者略歴

東京生まれ。学習院大学法学部卒業。小学校、高校時代を過したドイツで音楽教育を受け、学習院大学在学中に作曲家としてデビュー。その後アメリカ・イギリスで作曲法、指揮法、映像音楽を学び、海外各国で音楽活動を行う。日本レコード大賞作曲賞、日本歌謡大賞など受賞多数。ヒット曲数は一、一〇〇曲を超え、レコード売上枚数は六千万枚を超える。二〇二二年より文化庁長官。

能登の被災文化財に救いの手を……

——「文化財サポーターズ」発足によせて



文化庁長官
都倉 俊一
(とくら・しゅんいち)

戻すだけではなく、その魅力をより一層伝える工夫に取り組み、「創造的復興」につなげていくことが求められています。

今回のプロジェクトでは、このような災害復旧と「創造的復興」に取り組む、個人・企業と文化財の新たな関係性をつくることを目指す意欲のある所有者の方々を支援したいと考えています。皆様からの寄附による支援と合わせて、文化財サポーターズの運営事務局もノウハウの提供や伴走支援を行います。

文化財は、地域の人の心を支えるアイデンティティでもあります。能登をはじめとする各地域に連綿と受け継がれてきた文化を子どもたちに、そしてさらに未来へと受け継ぐために、「文化財サポーターズ」へのご協力をお願いいたします。

日本のユネスコ世界遺産9

白神山地

(白神岳)



ユネスコ世界遺産シリーズ

撮影・仙波志郎

白神山地は青森県南西部から秋田県北西部の県境にまたがる山岳地帯の総称で、ここはブナを主とする原生林におおわれた地域である。山岳地帯とはいえ、標高はそれほどでもなく、一二四三メートルの青森県側にある向^{むか}白神岳^{しろがみだけ}が最高峰となっている。

世界的に見て、現在ブナ林とよべる森林は日本を含む東アジアとヨーロッパ、北米東部の三カ所にしかない。

白神山地はブナを中心に五百種以上の植物が生育している。白神山地の植物群の特徴の一つは日本固有種や準固有種のものが多い数多くあることだ。こうした白神山地の植物相は、三〇〇〇万年前に地球上に温帯林が誕生した時の姿に限りなく近いという評価を受けている。

豊かな植物相は、多様な哺乳類、鳥類、昆虫類を育んでいる。

ブナ林は水を蓄える能力が大きく、多雪地である白神山地では融雪水の保水量も高く、地衣類や蘚苔類がブナの樹肌で繁殖し、昆虫や鳥類にとって格好の環境を提供している。白神山地は屋久島と共に一九九三年、日本最初の自然遺産として登録された。

文化財サポーターズ発足

——能登の被災文化財の復旧・復興にむけて

「官民共創」という掛け声のもと、出航した
「文化財サポーターズ」号。まず向かう先は能登半島。
地震による被災文化財の支援・復旧構想は……。

元旦の悲劇

まだ、お屠蘇の気分真つ盛りの一月一日の16時10分頃、石川県の能登地方を襲った震度7強の地震が大きな被害と悲劇をもたらしたのは、皆さま既にご存知のとおりです。

当財団は、一九九五年の阪神・淡路大震災、



輪島市黒島地区の惨状を視察する都倉長官（4月25日）



「文化財サポーターズ」発足記者発表。
左より都倉長官、澤理事長、米良さん、近山さん
（3月26日、文化庁にて）

二〇一一年の東日本大震災、そして二〇一六年の熊本地震の際には、いち早く被災文化財復旧・復興のための支援活動を開始いたしました。このたびの大地震についても、いかなる支援の方法がベストかと審議をしていましたところ、文化庁より昨年末、同行より提案されておりました「文化財サポーターズ」構想の第一回の支援対象は能登半島の被災文化財としたいとの申し出がありました。もちろん、異論はなく、事を推進いたしましたしもうとなつた次第です。

「文化財サポーターズ」の骨子は、巻頭言で都倉文化庁長官が述べられておりますので、その中身については、ここでは割愛させていただきます。

去る三月二十六日に京都の文化庁において、「文化財サポーターズ」発足の記者発表が行われました。記者会見には都倉俊一文化庁長官、当財団の澤和樹理



上時国家住宅：主屋倒壊



總持寺祖院：複数倒壊等

により水道機能が働かなかったことも大きな原因でした。
さらに海底の隆起によって陸化してしまった漁港。係留していた漁船が結果として陸に乗り上げてしまったため、海に出られず、能登の漁業は大きな打撃を被ってしまっています。
そして津波。津波で家を失い、地形の変動によって生活の手だてを失ってしまった沿岸の人々の生活の立て直しには資金と長い時間を要するため、当事者のご苦労は察するに余りあります。
文化財の被害に目をむけます。能登地方の代名詞的存在の輪島塗りの存亡が危惧されました。これは多くの工房が倒壊したり、火災にあったりして、壊滅状態となつてしまったこと、加えて輪島塗りの製作にたずさわる方たちの多くが、個人的な被害が甚大で自分たちの職場である工房への復帰がむずかしくなっていることに起因しています。

それでは有形文化財の方はどうでしょうか。
被害の全容がまだ確定したわけではありませんが、この時点で伝えられているよく知られている被災文化財を列記してみます。

輪島市の古刹として知られる總持寺祖院は大きな被害を受けました。国登録有形文化財に指定されている三十三メートルの回廊・禅悦廊が全壊。大河ドラマ「利家とまつ」で知られる加賀藩初代の前田利家公の正室「まつ」の位牌が祀られている塔頭の善春院は倒壊。

今回の地震被害では家屋の倒壊が多いのも特徴です。江戸時代末期の天保二年（一八三二）に建てられたという「上時国家住宅」は一階部分が押しつぶされ、かやぶき屋根が地面に接している状態となっています。

海底の隆起による漁港の被害については、ふれましたが、同じように陸地における土地の隆起も思わぬ被害をもたらしています。輪島市の鴨ヶ浦海岸にある「鴨ヶ浦塩水プール」は、国登録有形

復旧・復興の日をめざして

文化財は時代の証人です。それは人間の知的生産物を具現化したものです。建造物はもちろんのこと、工芸技術などの人の「技」、その土地に伝わり続ける伝統行事も大切な「文化財」なのです。各地に残り、伝えられてきた文化財は、人々の誇りであり、心の支えでもあります。

私たちは文化の面から能登を中心とする北陸の地を支援してまいります。

「文化財サポーターズ」プロジェクトは発進いたしました。

皆さまから届いた心あたたまるご支援は、被災した文化財所有者等に届けます。この夏より復旧・復興が必要な文化財所有者等から申請を受けつけ

寄付の方法は3種類からお選びいただけます。

クラウドファンディング「READYFOR」のページから寄付をしていただけます。また、クレジットカードなどでの寄付が難しい方のために郵便局と銀行からのご支援もお受けしています。文化財の救援、そして未来へつなぐためにご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

郵便振替	銀行振込	READYFOR (クラウドファンディング)
振替番号 00170-1-499266 加入者名 公益財団法人 文化財保護・芸術研究 助成財団	三井住友銀行 上野支店 普通8399622 口座名義 公益財団法人 文化財保護・芸術研究 助成財団 ※銀行振込の場合、事前に 下記*に御連絡いただけますと幸いです。	令和6年能登半島地震 文化財復興緊急支援 文化財サポーターズ募集 https://readyfor.jp/ projects/90noto

* TEL (03) 5685-2311
FAX (03) 5685-5225
<https://www.bunkazai.or.jp/>

写真提供・文化庁

被害状況について

能登半島で起きた今回の地震は、さまざまな形で大きな被害をもたらしています。

激しい揺れによる家屋の倒壊。これで多くの尊い人命が失われました。発生した火災は大火となり、輪島名物の「朝市」は開催不能。これも地震

事長、そしてパートナーとして博報堂より官民共創推進組織PROJECT・Vegaのエクゼクティブクリエイティブディレクターの近山知史氏、CFサイト「READYFOR」の代表取締役CEOの米良はるか氏が出席されました。
都倉長官より記者会見の主旨が説明され、澤理事長、近山氏、米良氏の順で、それぞれの立場、役割りが披露されました。

記者席が沸いたのは、能登の被災文化財を救済するためのこのプロジェクトの応援団長にゴジラこと、松井秀喜氏が就任を快諾していただけたとの報告でした。

また、この席で「文化財サポーターズ」のロゴマークも披露されました。
これで体制も整い、出発・進行となつた次第です。



このロゴマークの下、皆さまのご協力をお待ちしております

ることを予定しています。その後、審査の上で配分先を決定し、支援金を届けます。
皆さまのご協力を心よりお願い申し上げます。

「昭憲皇太后大礼服研究

修復復元プロジェクト」成果報告

国際シンポジウム——受け継がれし明治のドレス

ロイヤル・ミステリーと称された

大礼服修復復元プロジェクト。

その研究成果が語りかけてくるものは……。

昭憲皇太后の御英断

中世日本研究所（京都）と明治神宮が二〇一八年から二〇二四年にかけて実施した「昭憲皇太后大礼服研究修復復元プロジェクト」が完了し、その成果報告として、二〇二四年四月六日、明治神宮会館において国際シンポジウムが開催された。同時に、昭憲皇太后百十年祭を記念し、明治神宮ミュージアムにおいて「受け継がれし明治のドレス」前期展が開催された。修復を終えた昭憲皇太后大礼服（大聖寺蔵）を立体展示し、その修復工程の紹介や、関連する品々などが展示され、一カ月という短い期間ながら予想以上に多くの来館者があった。

この大礼服は、明治天皇妃、美子皇后（昭憲皇太后）の初期の洋装礼服のひとつであり、裂地も縫製もヨーロッパ製と思われてきたが、修復の過程で、素材、仕立て、装飾、そのすべてとは言わないまでも、ほぼ日本で製作されたことがわかってきた。洋装大礼服が象

たことは特筆すべきである。

プロジェクトを支えた人々

シンポジウムの最後、第3セッションは、四人の登壇者による自由な意見交換の場となり、この内容には多くの好意的なコメントを頂いた。だが、最も印象を残したのは第2セッションで、大礼服の修復・保存・展示にあたり大変重要な役割を担った十四人の「プロジェクト協力者」だった。最初に、染織品文化財修理所の「染技連」が、修理を行う上で経験したことや直面した課題について報告した。続いて、LACMAのクラリッサ・エスグエラ氏が、ボデイスを最適に保存し展示するための革新的なマウント（トルソー部分）の制作について三分間のプレゼンテーションを行った。また、立体の姿で展示するためには、欠失しているスカートを復元する必要がある。ボデイスとトレインに相応しく、展示のさまたげにならないような、あの当時の流行に適合するスカートのデザインの考案である。京都服飾文化研究財団の周防珠実氏と油井薫氏は、LACMAのクラリッサ・エスグエラ氏と英国のジョアナ・マーシュナー氏とともに保存や展示のための専門的な知識と経験をこのプロジェクトに注いでくれた。修復だけでなく、展示のためにも、専門家チームの協力が必要だった。ボデイスのための保存用のマウントとスタンドには、展示のために長いポールとそのスタンドが必要で、株式会社七彩の専門家と一緒に綿密な検討が重ねられ、何度も設計図を修正しながら、保存用と展示用のポールとスタンドが制作された。

大礼服の裂地は非常に傷みやすく、折り目やブリーツ（ひだ）のところから劣化がおこる。そこで、トレインに深いブリーツを入れて立体的に見せるため、実物のトレインにブリーツが入らないよう、ウエスト部分に布を足すことを検討した。スギシタ有限会社はデジタルプリントの技術を駆使して大礼服の裂地を見事に再現した。担当した覺野真規子氏は、立体的な織紋様

徴しているのは、国のために尽くすという皇后の深い献身的な姿勢であり、洋装であっても出来るだけ日本製の素材でという皇后の思いが込められていたと思われる。このこ



国際シンポジウム第3セッション

とは、「思召書」の中でふれられており、国産品の使用は日本国内の技術進歩や産業の推進につながると述べられている。

この大礼服は、外国の高官たちを彼らの習わしに沿った装い

の持つニュアンスのある裂地を再現するために、デジタル技術でどのようにイメージを重ねたかを説明した。

プロジェクトを通じて学んだ文化伝承の在り方

文化財の修復保存の基本概念は、現状のまま如何に保存するかであり、その観点から、金属刺繍の変色部分に関してはそのままにすることにした。そこで、文学園大学修士課程に在籍していたブリタニー・グラッシー氏（ニュージーランド）により、彼女の得意とする最先端のIT技術と裁縫の経験を活かし、この大礼服が制作された当時の様子をバーチャルで再現した。

国籍も年齢も多様なチームの中で、若い世代の活躍は頼もしく感じられた。この大礼服プロジェクトを通して、明治時代の研究だけでなく、将来を見据え、指針となるような方向性が示されたと言える。シンポジウム参加者からは、「国際的な視点での分析、大礼服そのものに加えその奥にある様々なストーリーの解明、伝統工芸職人への機会提供、次世代技能者、海外



国際シンポジウム第2セッション

若手新技術研究者育成など、目を見張る取り組みだった」と言っていた。プロジェクトが目標としたことは、大礼服の修復を通して、文化伝承の在り方について新たな提案をすることだったと言える。

セッション

中世日本研究所所長

モニカ・ベーター



で謁見するという国際的な役割があった。そこで研究修復プロジェクトにおいても、国内外の研究者や技術者によるグローバルなチームが編成された。そして、二〇二四年四月六日に開催された国際シンポジウムの第1セッションでは、プロジェクトに深く関わってきた国内外の専門家が様々な視点から大礼服について各自二十分のプレゼンテーションを行った。ジョアナ・マーシュナー氏（ヒストリックロイヤルパレス主任学芸員）は西洋と東洋の宮廷服の変遷について、吉村紅花氏（文学園大学文化ファッション研究機構）は歴史について、私、モニカ・ベーター（中世日本研究所所長）は織りについて、シャロン武田氏（ロサンゼルス・カウンティ美術館服飾専門主任学芸員）は刺繍について、それぞれが各テーマについて講演を行った。この四名は最後のセッションで再び集い、大礼服についてまとめのトークを行った。研究が進むにつれ、その制作過程なども多少判明してきたが、それ以上に、昭憲皇太后の勇氣、知性、思いやり、先見の明などが浮かび上がり、皆が昭憲皇太后への崇敬の念を抱くようになって

2の最後に、（公財）文化財保護・芸術研究助成財団の小宮浩氏と小林克夫氏に登壇いただいた。財団がプロジェクトの実行委員会に参画し、協力いただかなければこのプロジェクトも始まらなかった。文化財を守るためにはあらゆる分野の職人やその技術が必要であり、それらの継承も重要である。そして同時に研究を行うことで、プロジェクトを結実させることができる。準備段階から完了に至るまで長年にわたり（公財）文化財保護・芸術研究助成財団がこのプロジェクトの中心軸となり、回転し続けることができたのでここまで継続することができた。今後は、文字に残し伝えることも、文化財保護の継承のために重要なことと考える。残すところ、このプロジェクトの証として書籍にまとめることで一つの区切りとしたい。



「受け継がれし明治のドレス」前期展 明治神宮ミュージアム

平山郁夫シルクロード美術館の

20年を振り返って

シルクロードを歩き、描いた平山画伯。
その人生と芸術の粋を収めた
美術館の誕生から今日までの歩みを見る。

うぶ声、成長、そして今……

二〇〇四（平成十六）年七月にスタートした平山郁夫シルクロード美術館は、今年、開館二十年という節目の年を迎えました。当館は、富士山と南アルプスを眺望する八ヶ岳南麓、山梨県北杜市長坂町に位置



美術館外観



開館式のテープカットを終えた平山夫妻（2004年）

し、日本画家で文化財保護活動に尽力した平山郁夫（一九三〇―二〇〇九年）の絵画とその資料、そして平山郁夫夫妻が半世紀近くにわたって収集してきた約一万点のシルクロードの美術コレクションを収蔵、展示公開しています。当館へは車で来られる方が多いですが、電車でも新宿駅から特急あずさで約二時間、小淵沢駅から八ヶ岳のふもとを走るJR小海線（八ヶ岳

高原列車）に乗り換えると、一駅目の甲斐小泉駅の駅前にあります。小海線の車窓からも、陶製の大きなラクダが並んだ広場と（通称ラクダ公園）とガラス張りのミュージアムカフェが見えます。

話は遡りますが、かつて当館の隣には、その前身となった「八ヶ岳シルクロードミュージアム」（一九九九―二〇〇四年）という小さなギャラリー兼ショップがありました。ここは平山郁夫の妻、美知子夫人（当館名誉館長）が長年、集めてきたシルクロードの工芸品や、手作りのアクセサリ、版画などを展示するためのプライベートミュージアムでした。やがて、このミュージアムの運営母体であり、自宅のある鎌倉二階堂に併設していた「シルクロード研究所」（一九八八―）が二〇〇四年に法人化され、上記のミュージアムを拡張するかたちで「平山郁夫シルクロード美術館」が誕生しました。この美術館では、ガンダーラ仏など平山夫妻が集めてきたシルクロード関係の資料、収集品だけでなく、平山郁夫の絵画も展示することになり



カフェ キャラバンサライから見た八ヶ岳

平山郁夫シルクロード美術館 館長
平山 東子
（ひらやま・とうこ）



ました。しかし、まだその頃の当館は、平山郁夫の大作を展示するスペースも設備も整っていませんでした。そこで、平山郁夫は自ら、多くの方々のご寄付を募り、新館を増築、二〇〇八年七月にリニューアルオープンを行いました。新館完成記念として、「平山郁夫と大いなるシルクロード」展が開催され、二階大展示室にはラクダのキャラバンを描いた平山晩年の連作が並びました。

社会と一体化した 美術館をめざして

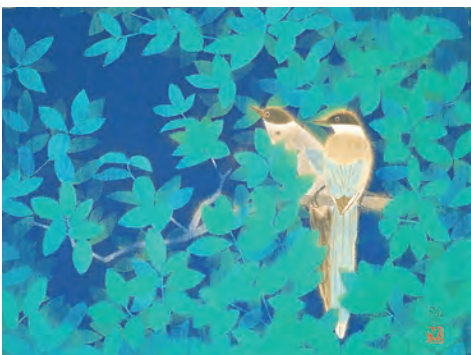
こうして美術館はほぼ現在の姿となり、翌二〇〇九年五月には市内の清里牧場（清泉寮）で、平山郁夫自身が講師になり、地元の小中学生のための絵画教室を開催しましたが、惜しいことにその年の暮に七十九歳で亡くなりました。私たちは失意の中、故渡邊明義先生（当時の当館代表理事、元東京文化財研究所長）のご指導のもと、公益認定を二〇一〇年六月に取得、当館は公益財団法人の美術館としての新たな一歩を踏み出しました。このことによって、美術館の使命はより大きなものとなり、平山郁夫の絵画とシルクロード文化の普及とともに、地域の文化観光に貢献できる文化施設としての役割を担うことになりました。



平山シルクロード・ロマンの原点《仏教伝来》（1959年）
（佐久市立近代美術館所蔵）



平山郁夫《天山南路》（1960年）
（佐久市立近代美術館所蔵）



平山郁夫《尾長鳥》（1971年）（個人蔵）

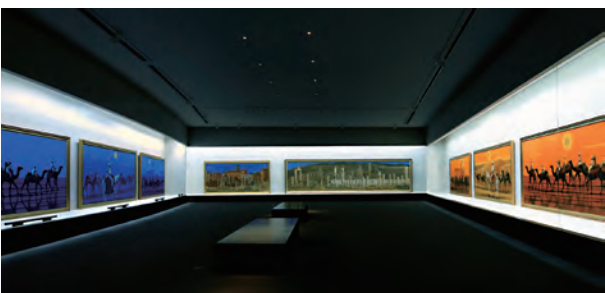


清泉寮での平山郁夫絵画教室（2009年）

昨今は、社会情勢も運営状況も厳しさを増すばかりではありますが、この二十年間に頂いたさまざまなつながりや経験を活かしながら収蔵品を活用し、地域の皆様にも、そして遠くから来訪されるお客様にも愛される美術館をめざし、より一層の充実をはかって参りたいと思います。これまでの二十年間、皆様から頂いたご厚情、ご支援に改めて感謝し、皆様のさらなるご指導とご協力を心よりお願い申し上げます。

平山郁夫の原点にふれる

当館では今、開館二十周年を記念して「平山郁夫―仏教伝来と旅の軌跡」展を開催しております（九月九日まで）。本展では平山郁夫の画壇デビューのきっかけとなった二十九歳の《仏教伝来》（一九五九年）とその



2階大展示室。左右は「大シルクロード・シリーズ」を構成する作品。正面左は《古代ローマ遺跡 フォロ・ロマーノ》（2008年）。右は《古代ローマ遺跡 エフェリス・トルコ》（2008年）
展示作品は随時、入れ替えます。

翌年に発表した《天山南路》（いずれも長野県佐久市立近代美術館所蔵）を中心に、その制作過程を示す習作や、学生時代のスケッチブック、その後、発表した「仏伝シリーズ」やシルクロード各地を題材とした作品などを展示し、玄奘三蔵

の旅路を描いた《仏教伝来》によって切り開かれた平山の画業をたどります。また、平山の絵画と共に、シルクロードの美術品（ガンダーラの仏像や、中央アジア、イラン、中国西域の工芸品等）を展示し、二階の大展示室（常設コーナー）では、平山が当館のために制作したラクダの隊商を描いた「大シルクロードシリーズ」を展示しています。この夏はぜひ八ヶ岳南麓へ皆様のご来館を心よりお待ちしております。

筆者略歴

公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館 館長
一九七〇年神奈川県生まれ。一九九二年慶応義塾大学卒、二〇〇三年東京大学大学院博士課程修了（専攻 美術史、文学博士。平山郁夫シルクロード美術館学芸員を経て、二〇一九年より現職。著書『ギリシアの陶画家クレイティアスの研究』など。
平山郁夫長男、平山 廉（古生物学者、早稲田大学教授）の妻。

南十字星の下、藝大フィルは響く

日本からみて地球の裏側にあたる遠い国
アルゼンチンの人々を熱狂、
感動させた藝大フィルの演奏会報告。



藝大フィルハーモニア管弦楽団 南米アルゼンチン・コロン劇場公演

東京藝術大学音楽学部に属する藝大フィルハーモニア管弦楽団（以下、藝大フィル）は、南米アルゼンチン・ブエノスアイレスのコロン劇場から招待を受け、二〇二三年十二月六日に公演を行ってまいりました。

指揮者は東京藝術大学前学長・名誉教授の澤和樹先生（現在、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団理事長）。そして、ソリストに和太鼓の林英哲氏を迎えて臨んだ演奏会でした。

当日の演奏曲目は以下の通りです。

B. スメタナ作曲・連作交響詩《我が祖国》より
第2曲「モルダウ」

松下功作曲・和太鼓協奏曲《飛天遊》

J. ブラームス作曲・交響曲第4番 ホ短調 作品98
（アンコール）外山雄三作曲・管弦楽のためのラプソディ

スエノスアイレスとコロン劇場 (Teatro Colón)

日本との時差十二時間の南半球アルゼンチンの首都、ブエノスアイレス。十二月初旬とはいえ、と



美しく咲き誇る「南半球の桜」ジャカランダ

た翌日の現地の日本大使館では歓迎レセプションも催していただき、三十時間を越えたフライト（羽田→ローマ経由→ブエノスアイレス）の疲れも見せることなく、最高の雰囲気です。演奏会本番を迎えることができました。

なりました。しかしながら、順調に本番の演奏が進む中、その「異変」は起きてしまいました。

演奏会後半曲目であるブラームス交響曲の最中での出来事でした。第一楽章も後半に差し掛かるその場面で「バチン！」という異音が会場の私の耳にも聞こえました。私には何が起こったか想像もできず、それでも演奏は進んでいきました。そんな中、観客としていらしたコロン劇場オーケストラ所属の日本人コントラバス奏者が「舞台上で起こった異変」に、いち早く気付きます。すぐさま客席から飛び出て、何とホール内にあったご自身の楽器をステージ袖に届けてくださったのです。

「コントラバスの駒から弦が外れる」ということは滅多に起こることではありませんが、たまたま借用した楽器に不具合があり、しかも本番中にそのような事故となってしまうと。同じコントラバス奏者だから分かるその異変の意味。そして、その方の素早いご判断のお陰で、驚くことに次の楽章には素晴らしい楽器が奏者の手元に届き、美しい響きへと繋がりました。

日系人の思いを受けて

今回はこの公演の他に、コロン劇場アカデミー生（Instituto Superior de Arte del Teatro Colón）への楽器指導も行いました。藝大フィルのメンバーが楽器指導を通じて、日本とアルゼンチンの文化交流



コロン劇場内の一コマ

でも過ごしやすい初夏の陽気でした。コロン劇場前の世界一広い道路と呼ばれている「7月9日通り（Avenida 9 de julio）」では「南半球の桜」と称される

青紫色のジャカランダが美しく咲き誇り、また同時に、クリスマスに向けてのイルミネーションも始まったとても良い季節でした。一行は美しい街並みの中、現地の方々からも温かく迎え入れていただきました。到着した夜には本場アルゼンチンタンゴショーを鑑賞し、夕食では「人の数より牛の数が多し」というアルゼンチンらしい見たこともないような分厚いステーキを堪能させていただきました。また翌日の現地の日本大使館では歓迎レセプションも催していただき、三十時間を越えたフライト（羽田→ローマ経由→ブエノスアイレス）の疲れも見せることなく、最高の雰囲気です。演奏会本番を迎えることができました。

使節としての大切な役割も果たしました。加えてこの公演にはもう一つ、演奏するという以外に大切な意味が込められておりました。

私が最初の視察でアルゼンチンを訪れた際、ある日系人2世の方が私に話してくださいました。

「日本人であつた私の父をはじめ私たち日系人は、少し前の時代までコロン劇場に入るのはもちろん、コロン劇場の前で立ち話をするこさえ許されない時代を経験しております。それが今回、アジアの、そして我々の誇る日本の藝大フィルがこの舞台で演奏し、そのお陰で我々日系人も胸を張って劇場に入り、そして誰よりも楽しむことができる。この素晴らしい、尊さが理解できますか？」

普段、良い音楽を奏でる事に重きを置き、日々懸命に活動してきた藝大フィルにとって「我々の務めはこれだけで良いのか」という初めての疑問。今回の公演は、コロン劇場で演奏するという本来の大切な目的に加え、日系人のこれまでの長い歴史に秘められた思いを背負って、その答えを見つけない行つた公演でもありました。

そして最高の瞬間

演奏は本本当に素晴らしいものでした。演奏のクオリティはいつもと変わらないはずですが、藝大在職中よりこのオーケストラの指揮を、そして長きに渡って藝大フィルの発展にご尽力くださった指揮者の澤和樹先生との演奏は、その信頼関係も加わり息の合った音楽を奏でました。また、これまでも世界の音楽ファンを魅了した林英哲氏の和太鼓の演奏も、コロン劇場でも全ての観客の心を捉え、会場に多くの「Bravo!」の声飛び交いました。

コンサート結びには、日本の様々なメロデーが随所に散りばめられた「管弦楽のためのラプソディ」を演奏し、会場の雰囲気は最高潮に達しました。カーテンコールでは、何度も、そして何度も、指揮者、ソリスト、コンサートマスターが呼び出さ

東京藝術大学音楽学部指揮科教
藝大フィルハーモニア管弦楽団
事務局長
酒井 敦
(さかい あつし)



伝統あるコロン劇場は「世界三大オペラ劇場」のその名の通り素晴らしい劇場でした。多くの映像や豪華なシャンデリアがあるロビー。ホール内の天井には目を奪われるようなステンドグラスがあり、馬蹄型の客席は立ち見席も含め、その規模に圧倒されました。私はこの公演以前に、表敬訪問と視察等で二回劇場を訪れていますが、その都度、この劇場で演奏できる喜びと期待は増すばかりでした。

劇場正面に横付けされた高級車からホールに入るドレスアップしたお客様。お手頃で安価な立ち見席から気軽に演奏会を楽しむお客様。その楽しみ方は様々で、この「劇場」と、そこで演奏される「音楽」が万人に愛されていることを窺い知ることができ、日本では味わうことのない熱気に満ち溢れた「会場の独特な雰囲気」も肌で感じることができました。

本番での出来事と友情

多くの大歓迎を受けた私たちでしたが、大型楽器や和太鼓以外の打楽器においては、劇場に所属しているオーケストラより借用いたしました。正直、他人や他団体に楽器を貸すということは、演奏家にとってあまり嬉しいことではありません。それでも「日本のオーケストラの為に」と用意してくださった楽器はどれも素晴らしく、演奏者皆のサポートと



指揮は澤和樹先生 © Arnaldo Colombaroli

れ、15分を超えるスタンディングオベーションと大拍手。その後、一度は楽員全員がステージ袖に下がりましたが会場の興奮は止むことがありません。今度は楽器を持たずに出演者全員がステージ前に再登場し、手を振って観客に応えます。この光景を誰が想像したでしょうか。それは、途中コロナ禍で延期されたものの、この計画が始まってから5年。我々藝大フィルや地元日系人の皆様の待ちに待った思いが結実した瞬間でした。

あの忘れられないコロン劇場公演から、既に半年が経ちました。地球の真裏に互いが位置する両国の友情と南十字星の下で誓った藝大フィルの音楽は、日本の音楽界にとって、また、日本・アルゼンチン両国にとっても、貴重で新たな大切な歴史の一ページになったことと確信しております。

筆者略歴

一九六一年生まれ。指揮を遠藤雅古氏、小林研一郎氏に師事。一九九八年より東京藝術大学に着任。その後、助教、准教授を経て二〇二四年四月東京藝術大学音楽学部指揮科教に就任、藝大フィルハーモニア管弦楽団事務局長を兼任。NPO法人人材育成支援センター監事を兼務。日本指揮者協会会員。

(写真協力：楠田健太・東京藝術大学演奏藝術センター准教授／葛谷拓摩・東京藝術大学指揮科教研究助手)

定款第4条の定めに従い、次の事業を行いました。

令和5年度事業報告

■文化財保存修復助成事業

国内文化財の保存修復助成事業として、28都府県教育委員会等から推薦のあった51件の中から、27件について助成を行いました。

（美術工芸）

（敬称略・以下同）

- ①山形県・平塩寺
平塩寺木造阿弥陀如来坐像及両脇侍菩薩立像保存修理事業
- ②栃木県・那須烏山市
那須烏山市所有花咲爺図保存修理事業
- ③埼玉県・林泉寺
林泉寺木造伝正観音菩薩坐像保存修理事業



（修理後）

（修理前）

- ④神奈川県・寶蓮寺
寶蓮寺木造仁王立像保存修理事業
- ⑤三重県・古部 均
上市木八幡神社捕鯨の図絵馬保存修復事業

（研究・事業）

- ①国宝「信貴山縁起絵巻」現状模写研究（東京藝術大学美術学部 教授 吉村誠司）
- ②建築学生ワークショップ「仁和寺2023」（特非 アートアンドアーキテクトフェスタ 代表理事 平沼孝啓）
- ③「宝生流能楽公演 七葉會―夏目漱石の習った謡曲―（仮称）」（公社）宝生会能楽師（シテ方） 高橋憲正）
- ④『ガルス・ドレスラー全集』第2巻の出版（東京藝術大学音楽学部 教授 大角欣矢）
- ⑤中世セルビア王国時代の沿岸地域の壁画研究（実践女子大学 非常勤講師 嶋田紗千）
- ⑥山田流箏曲の楽譜の出版（東京藝術大学音楽学部 教授 萩岡松韻）
- ⑦2023年度 ヘリテージ・アーキテクト養成講座（京都工芸繊維大学デザイン・建築学系 教授 清水重敦）
- ⑧和楽の美「源氏物語」夕顔・須磨の巻（東京藝術大学音楽学部 准教授 藤波重彦）
- ⑨洋画家奥瀬英三氏のアトリエ付住宅の歴史的評価―住宅調査・曳屋・史料検討による活用計画の提案を通して―（芝浦工業大学建築学部建築学科 助教 小柏典華）
- ⑩九学会調査音源資料を活用した三匹獅子舞の再構成と再活性化（東京藝術大学音楽学部 教授 植村幸生）
- ⑪ミュージック・フロム・ジャパン49周年音楽祭（アプサラス会員 西 耕一）
- ⑫Circle 2023展（仮名称）（東京学芸大学教授 朝野浩行）
- ⑬岸竹堂筆「天津唐崎図」に用いられた白色色材の調査（一社）千總文化研究所 担当課長／研究員 小田桃子）
- ⑭《シューベルトの時の時 Schubertiade

- ⑥京都府・円満院

円満院絹本著色仏涅槃図保存修理事業

- ⑦広島県・明王院

明王院木造弥勒菩薩坐像保存修理事業

- ⑧愛媛県・太山寺

太山寺木造五智如来坐像保存修理事業

- ⑨熊本県・青井阿蘇神社

青井阿蘇神社不動明王・毘沙門天脇侍懸仏保存修理事業



（修理後）

（修理前）

（建造物）

- ⑩青森県・田村 定寿

海童神社拝殿屋根保存修理事業

- ⑪宮城県・陸奥国分寺

陸奥国分寺薬師堂仁王門保存修理事業

- ⑫茨城県・国王神社

国王神社本殿／拝殿保存修理事業



（修理後）

- ⑬群馬県・穴原薬師堂保存会
- ⑭千葉県・行元寺
- ⑮東京都・妙福寺
- ⑯新潟県・二宮神社
- ⑰山梨県・通神社

- ⑱長野県・正受庵
- ⑲岐阜県・北方神社
- ⑳滋賀県・徳源院
- ㉑兵庫県・観福寺
- ㉒奈良県・御霊神社
- ㉓和歌山県・大泰寺
- ㉔鳥取県・齋藤 信子
- ㉕鹿児島県・森 節子



（修理後）

（修理前）

（有形民俗）

- ㉖富山県・八尾町今町曳山保存会
- 八尾町祭礼曳山保存修理事業



（修理後）

（修理前）

- ㉗静岡県・中町秋葉山常夜燈保存会
- 中町秋葉山常夜燈保存修理事業



（修理前）



（修理後）

画像提供：静岡市

■芸術研究等助成事業

文化財の保存修復及び芸術に関する調査研究、成果の発表、国際交流事業の実施等に対する助成事業として申請のあった26件の中から、18件の事業に助成を行いました。【No.15の事業については、助成決定後辞退の申し出がありました。】

von Zeit zu Zeit》（全5回公演）（一社）全日本ピアノ指導者協会 会員・ピアノスト 大井浩明）

（国際会議出席）

- ⑮「音楽トライアングル、ドイツ・フランス―日本・冷戦期における音楽移動」（東京藝術大学音楽学部 教授 福中冬子）
- ⑯「Music Encoding Conference 2023」（ミュージック エンコーディングカンファレンス）（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻 博士課程1年 関 慎太郎）
- ⑰「Amps（建築社会環境メディア研究学会）遺産に関する会議」（筑波大学大学院博士課程3年 福村佳美）
- ⑱「ICOMOS 21st General Assembly and Scientific Symposium（第21回ICOMOS総会・学術シンポジウム）」（京都工芸繊維大学デザイン・建築学系 助教 MARTINEZ Alejandro）

■国際協力事業

文化財の保護及び芸術文化に関する国際的な協力・交流、人材養成事業など申請のあった7件の事業の中から、7件の事業に対して助成を行いました。

- ①敦煌研究院より研究員招致（談 翔氏）（敦煌研究院 院長 蘇 伯民）
- ②後期青銅器時代のバズギル（イラン）出土青銅器群の保存修復と科学的調査（帝京大学文化財研究所 准教授 藤澤 明）
- ③アク・ベシム遺跡から出土した金属製品の保存修復研究（公財）山梨文化財研究所 研究員 三浦麻衣子）
- ④イタリアにおける文化財建築の保護に関する国際共同研究（名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 教授 青木孝義）
- ⑤アンコール・タネイ寺院遺跡東門竣工記念 技術交流招聘事業（東京文化財研究所

文化遺産国際協力センター長 友田正彦）

- ⑥古代遺跡における日乾煉瓦遺構の保存とその修復技術の確立（公財）中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所研究員 大村正子）
- ⑦カンボジア、サンボー・プレイ・クック遺跡群の保全修復（早稲田大学理工学術院准教授 小岩正樹）

■重点助成事業

- (1)昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業

大聖寺門跡所蔵の昭憲皇太后大礼服は、明治時代の西欧化、社会変化、殖産興業などを表象する大礼服であり、現存する最古の昭憲皇太后所用の第一礼装です。貴重な歴史資料であり、近代日本の象徴的遺産として文化財的価値が高いものになります。経年劣化著しい大礼服の修復、欠失している部分（スカート）の復元のため、令和元年度から令和6年度まで募金を行い昭憲皇太后大礼服の研究・修復・復元事業を実施します。

- 令和5年度は6年計画の5年目であり、次の助成を行いました。

- ①昭憲皇太后大礼服研究修復元プロジェクト実行委員会
- 昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業・保存用収納箱製作（トレイン用収納箱2箱・タイベック製畳紙とも）、ボディス収納箱）
- ・大聖寺本堂にて立体全体像撮影
- ・昭憲皇太后110年祭記念プロジェクト紹介のため、修復工程復元、金属刺繍見本制作）



展示会の様子



ボディス収納箱

- (2)尼門跡寺院文化財保存修復支援事業

尼門跡寺院の文化財保存修復事業は、故平山郁夫元理事長が上皇后から依頼を受けて実施しているものであり、平成12年度から開始され平成29年度までに29件の文化財を修復しています。今回の事業は、中世日本研究所（京都）、中世日本研究財団（ニューヨーク）が中心となり、日本だけでなく世界から寄付を募り実施します。

- 令和5年度は4年計画の4年目であり、次の助成を行いました。

- ①中世日本研究所、眞如寺（京都）眞如寺蔵無外如大禅尼像他研究修復出版プロジェクト
- ・相国寺承天閣美術館にて展示会及び関連イベント開催

- ・無外如大生誕800年記念法要など開催
- ・無外如大生誕800年記念出版

- (3)その他（東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業）

例年実施の文化財保存修復助成申請の中には東日本大震災被災文化財の保存修復事業の案件が未だに含まれており、東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業の募金及び残予算もあることから、次のとおり助成を行いました。

（建造物） ①宮城県・愛宕神社 愛宕神社本殿・拝殿保存修理事業 ②福島県・陽林寺 陽林寺「衆寮」改修事業 ③福島県・長谷寺 長谷寺山門保存修理事業 （修理前） （修理後） ■シンポジウム等の開催事業、その他普及 広報活動 文化財の保護及び芸術振興に関する啓蒙活動、国際交流、広報活動として広報誌の発行、文化交流フォーラムの開催、その他普及広報活動に関連し次の事業を行いました。 ①広報誌「絲綢之路」の発行 第102号（二〇二三 夏） 令和5年6月28日発行 第103号（二〇二三 秋） 令和5年10月20日発行 第104号（二〇二四 新春） 令和6年1月25日発行 発行部数…各2、000部 配布先…都道府県教育委員会、美術館・博物館、文化財研究機関、芸術系大学、新聞社、支援者、賛助会員、理事・評議員、その他関係者に配布 ②日中韓文化交流フォーラムの開催	
②日中韓文化交流フォーラムの開催	

期間…令和5年10月30日（月）～11月2日（木） 会場…韓国（仁川市） 行事…第16回日中韓文化交流フォーラム テーマ…「ポストコロナ時代の文化交流」 日・中・韓の代表団の方々 ③第73回社会を明るくする運動「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」に協力 主催…社会を明るくする運動、中央推進委員会ほか ④講演会・シンポジウム・展覧会等の後援 ア「文化遺産 保存・継承 第17回読売あをによし賞」を後援 主催…読売新聞社 後援…文化庁、大阪府教育委員会、独立行政法人国立文化財機構ほか イ「文化財保護・救済活動チャリティー企画25周年「文化人・芸能人の多才な美術展」2023 (Entertainment Art Exhibition)」に協賛 後援…文化の輪・芸術は地球を救う！展を後援 会場…品川区O美術館ほか 主催…特定非営利活動法人「日本国際文化遺産協会」、同実行委員会 後援…（公財）文化財建造物保存協会、（公社）日本ユネスコ協会連盟 ウ「令和5年度文化財保存修復を目指す人のための実践コース」を後援 主催…特定非営利活動法人 文化財保存支援機構	
③第73回社会を明るくする運動「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」に協力	

後援…独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館、（公財）日本博物館協会、（一社）文化財保存修復学会ほか （エ）「第10回アール・パレ展」を後援 会場…京都佛立ミュージアム 主催…アール・パレ実行委員会 後援…ICOM（国際博物館会議）日本委員会、京都市教育委員会ほか	
令和5年度ご支援いただきました 賛助会員の皆様	
法人正会員（十四社） 【五十音順】 朝日生命保険相互会社 株式会社 NKB 花王 株式会社 鹿島建設 株式会社 株式会社 講談社 株式会社 集英社 全日本空輸 株式会社 株式会社 高島屋 株式会社 電通 野村ホールディングス 株式会社 東日本遊技機商業協同組合 三井住友海上火災保険 株式会社 株式会社 三井住友銀行 株式会社 ミロク情報サービス 法人維持会員（十二社） 【五十音順】 大塚ホールディングス 株式会社 公益財団法人 鹿島美術財団 株式会社 精養軒 大日本印刷 株式会社 大和建設 株式会社 東京ガス 株式会社 株式会社 東京ドーム 株式会社 東京マルイ美術 株式会社 なとり	

浜名梱包輸送 株式会社 株式会社 平成建設	
ご寄付をいただきました皆様	
●令和6年1月1日から 5月31日まで 敬称略／順不同	
☆寄付金 ○文化財保存修復・芸術研究等助成事業に対する寄付 共同印刷 株式会社 ヤフー ネット募金（158名様） （宗）北方神社 （宗）平塩寺 穴原薬師堂保存会 故・細川暢子様遺贈金	
○昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業に対する寄付 ○尼門跡寺院文化財修復助成事業に対する寄付 中世日本研究所 ○能登半島地震文化財復興緊急支援事業に対する寄付 恭儉寺	
編集後記	
当財団の創設者である平山郁夫先生と奥さまがつくられた「平山郁夫シルクロード美術館」が開館二〇周年をむかえました。その記念式典が三月二十三日に挙行されました。当日、美術館のある甲斐小泉は春の大雪。しかし、式典終了の頃は晴天に……。美術館のさらなる発展を祈念いたします。 私たちの事務局のある上野公園は緑の季節の真っ盛り。連日、インバウンドの外国人観光客を含め、修学旅行の学生など、人々にぎわっています。気象庁の長期予報によれば、今夏もきびしい暑さ、とのこと。皆さまどうぞ暑さ対策を十分してそれぞれの夏休みをお楽しみください。	
広報誌「絲綢之路」（シルクロード） 二〇二四年 夏号 通巻第一〇五号	